

TAKUMI ART NEWS

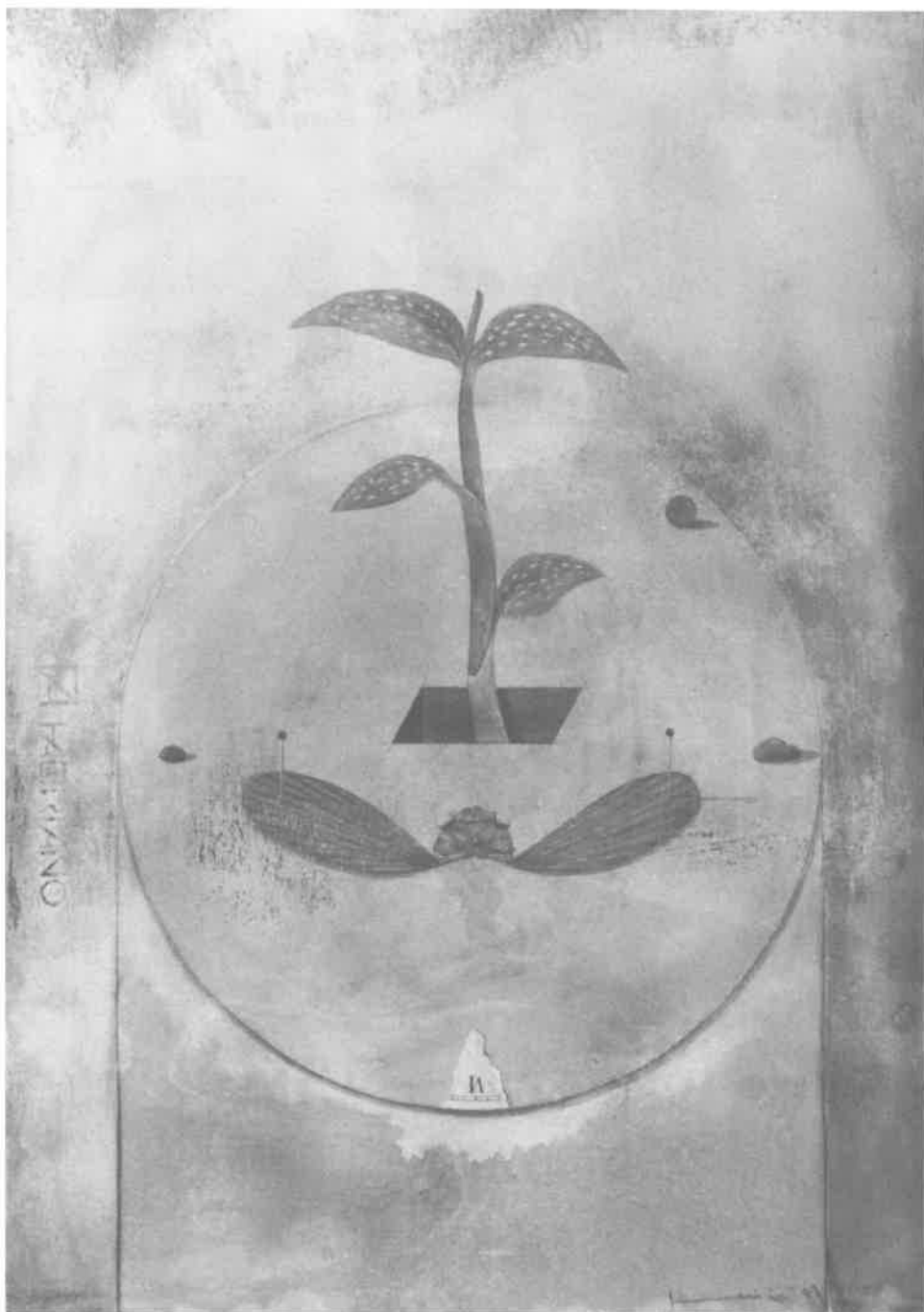
制作発行：画廊 匠 1988年2月9日 No.22

88企画—2

阿部 健二展

2月9日(火)—3月6日(日) (月曜休廊)

画廊 匠 宜野湾市大山3 1 2 番地
Phone 09889(7)7981



時間は過ぎている 水彩 49.3×35.0cm

紙上の出来事

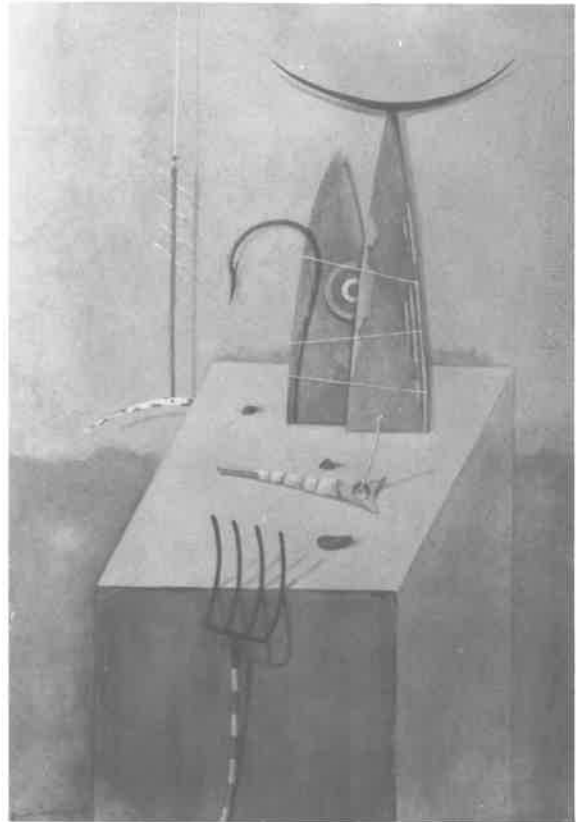
永津 禎三

今日的な具象絵画の一方を考えると、描かれる物それぞれは、一般的な意味付けだけで終わることなく、冷静に分析されなければならない。そこで本質的な形や構造が、描かれることによって、つきとめられることになる。

阿部の水彩による作品は、当初はリトグラフの下絵のために作られていた。が、作画自体が重要な部分になるにつれ、版への置き換えは本人にとってさほど意味がなくなってきた。しかし、版画から抜け出した彼の水彩作品は、描かれた画面が空間の表現（平面的な処理と立体的な処理の知的に混在した一種のトロンブルイユ）でありながら、最終的には紙上の世界＝紙の物質性に帰結する。これはまさに版画(プリント)の世界と同一である。作品の中でそれぞれの物は、注意深く繊細に描かれ組み合わせられるが、形体は露骨にはっきりとはしない。あくまで紙に描かれたものであるという前提を守るかのようである。

図鑑制作者のような阿部の仕事には、度々、他作家の作品からの引用が見受けられる。そして、その作家自体がまた過去の作家の引用をしている場合が多い。例えば、デューラーの引用をしたヴンダーリッヒをブルーニが引用するように。それは明らかに、図式化された記号としての形体を、違った解釈によって読み取ることであろう。そして実際の自然からの解釈とを混在させるのである。

この引用の応酬は、見る者に知的な興奮を誘う。しかし、この方法は常に危険と隣あわせとってよい。なぜなら解釈抜きでの引用は、単なる模倣と墮するだけであるから。阿部に望みたいのは、この解釈の裏づけとなる観念の構築にほかならない。物の存在を成り立たせている認識の世界の、思いがけない、質、量、時間、空間等の関係を絵画上の観念として築き上げてほしいと願うのである。



fish 水彩 49.3×35.0cm

1964 宮崎県生まれ

1987 琉球大学教育学部美術工芸科卒業

1987.4月-88.3月 研究生

